

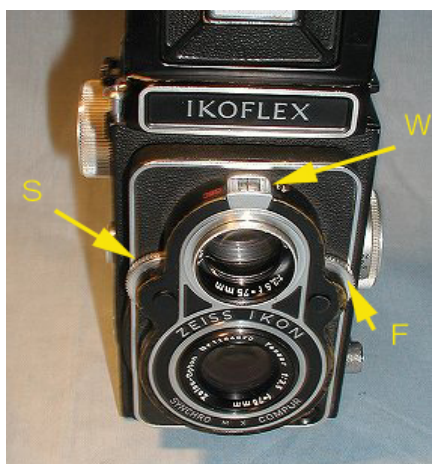
取り扱い説明書
ZEISS IKON
IKOFLEX IIa Restyled

JE2LUZ作成

イコフレックス 2a
855/16



ドイツ ツァイス・イコン社 1953~1956製造
レンズ オプション テッサー75mmf3.5
フィルターサイズ 35.5mm 捻じ込み式 37mmかぶせ
シャッター コンパーラピッド 1~500まで M・X
接点切り替えシンクロ
番号1セット後はオートストップ・セルフコッキング
付き巻き上げ



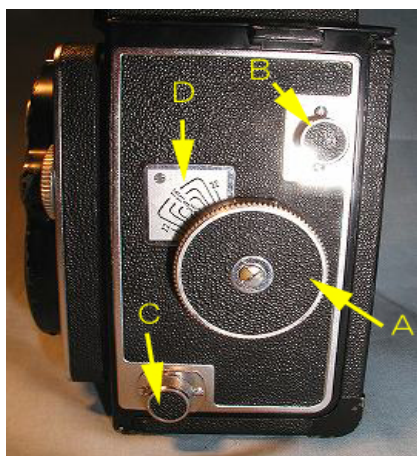
前面

特別変わったところはありません。

S シャッター速度調節ノブ
最高速に入れる時はかなり固いです。コンパーは最高速を使わない方がよいとも言われています

F 絞り調節ノブ

W シャッター速度、絞り値表示窓
標準的な物ですが、年寄りには少し見づらいです。



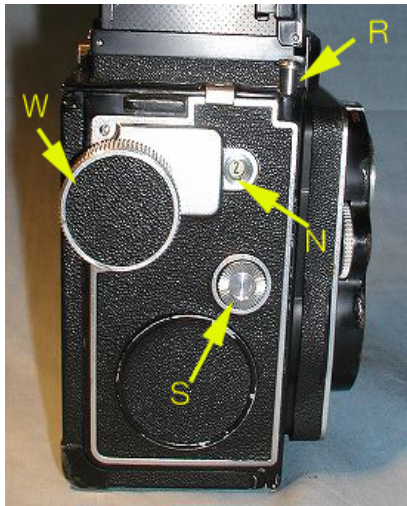
左手側

ここも標準的な物です。

A 焦点合わせノブ
径が大きいので合わせよいものです。

B・C フィルム交換用引き出しノブ
フィルム交換時に引っ張り出してスプールの入れ替えなどを行います。

D 被写界深度表示
焦点合わせノブの回転数が少ないのでこの表示は狭くなっています。



右手側

こちらの配置も標準的ですが操作が少し変わっています。

R シャッターボタン

レリーズボタンは上下にカメラを握りつぶすように押しします。上下に均等に押える感じなのでぶれにくい物ですが、子供やご夫人で手の小さい人には押しにくいかも・・・

W 巻き上げノブ

カウンターがセットできれば二枚目からは自動巻き止めでシャッターもコッキングされます。

N 枚数カウンター

フィルムの駒数が表示されます。自動復元ではないので、カメラのテストとかで途中の枚数のままでフィルム装填を行うと具合が悪いです。途中の番号で止まっている時は必ず12番を過ぎて巻き上げノブが空回りするまで空写しをしてから装填作業に入ってください。

S カウンターセットダイヤル

下の写真の赤窓に『1』が出るまで巻き上げたら、このダイヤルを指の腹で押えて左方向に回します。すぐにカウンターに『1』が出て止まります。ほんの少し抵抗がありますが、この時に一枚目のシャッターがセットされます。

二枚目以降はWの巻き上げノブを回すだけで自動になります。

底面

T 三脚穴

M 赤窓

この赤窓はセミオートマットのスタート位置を決めるための物です。

フィルム装填時にはこれを開けて裏紙の『1』が出るまで巻きます。

この窓から見えているのは6×9のときの番号ですから、この位置に『1』が来たときにカメラの6×6の窓の所までフィルムは届いています。

セット後はきちんと窓を閉めて光引きを防いでください。

120フィルムにスタートマークが印刷される前の設計ですからこのような方法をとっています。ツアイスの他の機種にもこの方式の物があります。

ほとんどのカメラは二枚目以降のストップをフィルムの送り代をローラーや歯車を使って検知しますが、このカメラではノブだけで制御しています。それでいて正確にストップさせているのはさすがにツアイスと言う所です。



1. フィルム装填

- 裏蓋を開け通常のカメラ同様に120フィルムを装填し、きちんと片寄り無く巻き取られる事を確認して蓋をしめます。
- 底面の赤窓を見ながら1が出るまで巻き取りませす。(この1は69のもの)
- 次にカメラ右サイド、カウンターの下のダイヤルを指の腹で押しながら左に止まるまで廻します。
- 巻き上げノブを少し廻すときっちり1が出て止まり、撮影できるようになります。
- シャッターチャージして、撮影後巻き上げを行いますが、コマ送りを確実にするために、カウンター下のダイヤルを一度押して巻き上げた方が良いでしょう。
- 12枚のあとは無制限に回転します。

2. シャッターチャージ

- シャッターチャージの前に速度を決めてください。レンズシャッターの場合途中でバネを変えますので壊れる原因になります。

3. カメラテストのときのシャッターセット

- フィルムが無いとシャッターチャージが出来ない仕組みですから、フィルムがあるように見せかけなくてはなりません。したがって、フィルム無しのままカウンター下のダイヤルを廻して1セットを行います。そして、12枚分のシャッターテストを行います。12枚以下で済んでも12枚撮影したように12回シャッターを落としてください。カウンターと裏蓋は連動していません。

4. 三脚穴は大きいほうになっています。一般の三脚を使用の場合はエツミなどからアダプターが出ています。ねじ込みっぱなしでよいと思います。

5. レリーズは通常のものです。